

第十二回川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会

平成31年3月20日（水）18：30～19：30

テーマ「人生最期の生き方と逝き方～人生会議と延命治療について～」

3月20日（水）に実施しました「第12回川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会」のご報告をさせていただきます。

この度は「人生最期の生き方と逝き方～人生会議と延命治療について～」終活をテーマとして、医療法人社団大谷会 島の病院おおたに 副院長 小林達也先生をお招きし、ご講演頂きました。当院では水曜日の泌尿器科外来と往診を担当して頂いております。

私たちは色々なデータや統計を参考にしながら生活をしています。ただ、そのデータや統計が必ずしも100%正しいとは限りませんが、100%間違えがないデータは、「人は必ず人生を終える」ということ。

ただ、時期は様々なので、いつどこで何が起きてもおかしくはないので、常日頃から考えて誰かに伝えておくことが大切です。

医療の現場で救急搬送され、人工呼吸器装着などの延命治療を行うか、生命に関わる判断を家族が限られた時間の中で判断しないといけない場面があります。前もって本人の意向やその理由が分かれば良いのですが、そうでない時は冷静さを欠いて悩んだり揉めたりし結論が出ないこともあるそうです。

だからと言って、いきなり両親や人生のパートナー、子どもたちに「逝き方」について話を切り出すのは難しいと思います。先生からは本人の誕生日や祝日（敬老の日など）、何かの節目の際に話されてはどうかと助言を頂きました。

講演を拝聴し、「逝き方」を考えるということは「生き方」を考えるとういうこと。最期まで自分らしい人生を送るための準備や意思表示というプラスの視点で考えることが出来ました。

ちなみに「自分の親に延命治療を希望するか？」というアンケートを取りました。「希望する」が2名、「希望しない」が（21名）、「わからない」が（21名）となりました。この結果を皆さんは、どのように感じますか？

